

2021/1/16

(うと Q 世話し 特集レポートのデータを読む「若い人の、コロナ後遺症の現実」)

昨日のニュースの中の特集で、とても興味深いレポートがありました。

「何故若い人は外出自粛をしないのか？」

理由が多かったのが

「罹っても重症化しない」と「外出して仕事をしないと食べていけないから」
でした。

後者は、食べていけないのなら、致し方ないでしょう。

しかし、前者は考えようがあるはずです。

そこで、そのレポートでは、若い罹患者のこんな現実を報告しておりました。

曰く

「罹患後の症状そのものは軽かったが、後遺症が酷く、かつまた長期にわたって悩まされている。しかも終わりが全く見えない後遺症に、です」

と。

それで、どのような後遺症かというと

第一位が、倦怠感

第二位が、気力の喪失や鬱状態

それから少し飛んで、脱毛

一位、二位は複数回答で70%以上。脱毛でも50%以上でした。

特に二位では、気力が続かない、だるくて身体が動かない、等の理由で、休職せざるを得ない例も。

脱毛については、若い女性なら美容上の観点から「自信喪失」や「引きこもり」にもつながりかねません。

しかも、このすべてに「終わりが見えない」恐怖。

「自分はこの先どうなってしまうんだろう？」

この事実を若い人には知ってもらいたいと思います。

気力もなくだるいままで生きながらえるほど、つらいことはありません。うつ病歴12年だった自分には痛いほどそのつらさが分ります。

自分は男ですが、若い頃薄毛に悩んだ経験からも、女性の脱毛に対する不安も理解できます。一時、じじばばの昼間カラオケや富裕層じじばばの go to travel でコロナが拡散されまくりまくりましたが、今は自宅待機死亡率の急上昇の恐怖から自粛行動に変化しているようです。

なので、次はコロナ罹患快復後の後遺症に悩まされないための、若い人の「正しい知識」に基づく行動変化が求められている気がします。

そうして、それでもだめなら緊急車両、貨物運搬車両以外の全交通機関と自家用車両の一時全面ストップくらいをしないと、コロナ封じ込めのための指標である、コロナ「実行再生算

数」が早期に 1 以下、希望的には 0.5 以下にすることは、まず不可能かと思われま
す。そのような過激な策の実行にまで至らないですむようにするには、今度は若い人の後遺症
の重大さに着目した行動変容が必要かと思われま